

## 横穴墓の構造がよくわかる 神崎横穴墓群



海士町神崎

横穴墓の前庭部まで掘られており、横穴墓全体の構造がよくわかる。遺体を納める奥の部屋は長さ3m、高さ2mもあり巨大だ。民家の裏山の斜面にあって、物置になっているので家の方に断って見学しよう。

<交通> 菱浦港から車10分  
<いにしえ> 3巻P38

## 県内最大級の横穴墓 御波横穴墓群



海士町御波

海からすぐの港を見おろす山の斜面に造られた横穴墓群。少なくとも6穴以上はある。うち1つは奥の部屋が長さ3m、高さ2.8m前後と、県内最大級の規模だ。堅い岩を彫り込んでいるため残りも良く観察しやすい。ここから出土したものは、海士町歴史民俗資料館に展示されている。

<交通> 菱浦港から車15分  
<いにしえ> 3巻P38

## 整備された古墳 新開古墳群



海士町海士

特別養護老人ホームの建設に先立ち、4基の古墳が調査された。そのうち1つは保存され、現在整備された姿が見られる。古墳には芝が貼られ、上からの眺めは抜群。

<交通> 菱浦港から車5分  
<いにしえ> 3巻P38、7巻P11

## 隠岐にもあるぞ、銅剣の出土地 竹田遺跡



海士町東

<指定> 町・史跡  
ゆるやかな丘の上から斜面にかけての弥生時代の遺跡。以前行われた発掘調査で、多量の土器などが出土した。また隠岐では唯一銅剣も出ており、県指定文化財。今も畑では土器が見つかる。

<交通> 菱浦港から車8分

## 海士で少ない横穴式石室 東古墳



海士町東

<指定> 町・史跡  
残りは悪いが、海士町で数少ない横穴式石室を見られる古墳。道の脇にこんもりとした高まりがあり、古墳の上には石室の壁や天井の石が露出している。

<交通> 菱浦港から車10分

## 島前有数の神社建築 宇受賀命神社



海士町宇受賀

<指定> 町・史跡  
島前有数の立派な社殿を持つ。本殿は隠岐造りだが、一部に美保造りの特徴も見られると言う。大正時代の造営だが、古式の形態をとどめた迫力のある本殿だ。

<交通> 菱浦港から車15分  
<いにしえ> 6巻P18

## 名水にちなんだ寺、隠岐随一の仏像 清水寺



海士町保々見

<指定> 県・彫刻  
山の斜面に木立に囲まれてひっそりとたたずむ寺。本堂は1955年に西ノ島町美田の長福寺から移築したものだが、材木の多くはそのまま用いられたようで、古色豊か。本尊木造聖観音菩薩立像は県指定。美保関町仏谷寺の聖観音菩薩立像によく似ていると言ひ、注目されている。事前に連絡すれば拝観できる。入口の天川の水は島根名水100選の1つだ。

<交通> 菱浦港から車15分  
<連絡先> 0854-2-0999

## 横穴墓関係の資料が見もの 知夫村郷土資料館



知夫村郡

知夫里島出土の考古資料や農具、魚具などの民俗資料を収蔵展示。とくに高津久横穴墓群出土の玉類をはじめとする遺物は見もの。見学は、夏の観光シーズンには係員が駐在するが、平素は知夫村教育委員会に事前の連絡が必要。

<交通> 来居港から車5分  
<連絡先> 08514-8-2301

## 豊富な玉類が出土 高津久横穴墓群



知夫村仁夫

湾を見おろす海からすぐの斜面で発見された横穴墓群。土砂崩れにより、発掘調査が行われた。須臾器や鉄器のほか、数多くの玉類が出土している。この玉類はほかに類がないほどの質・量を誇る。現在はコンクリートで保護され、一部に横穴墓の痕跡を見ることができる。

<交通> 来居港から車15分  
<いにしえ> 7巻P14

## 中世の石塔がたくさん 松養寺



知夫村知夫

<指定> 県・彫刻  
来居港に程近い、小高い山の頂上にあるお寺。木造地藏菩薩立像は県指定。周辺には小倉宮教尊王や文覚上人の墓と伝えられる石塔をはじめ、数多くの石塔があり、集合しているさまは圧巻。中世の歴史をほうふつさせる資料だ。

<交通> 来居港から徒歩15分

## 牛と一緒に島前の歴史を眺める アカハゲ山



知夫村知夫

<指定> 村・有形民俗文化財  
知夫里島でもっとも高い山(標高324.5m)で、一帯は草原。仁夫里坊、古海坊などの寺院跡があり、仁王門の伝承地もあることから、昔は霊山として信仰を集めていたのかもしれない。山頂付近には石を積み上げた「名垣」という石垣が続き、村指定文化財。頂上からの眺めは島前一と言われ、初夏の野大根の花は美しい。

<交通> 来居港から車25分

## 赤壁観光かねて古墳見学 猫ヶ岩屋古墳



知夫村宮内

観光地として知られる知夫赤壁にほど近い、ひっそりとした狭い谷間にある古墳。残っている部分だけで長さ6mはある、立派な横穴式石室を持つ。赤壁にも近く、ぜひ立ち寄りた古墳だ。

<交通> 来居港から車25分  
<いにしえ> 3巻P38

## 隠岐あわび

隠岐といえば、まずその豊富な海産物を思い浮かべる人も多いでしょう。隠岐への交通が発達し、県外からも本州ではもうめったに釣れない大物をねらって、多くの釣り人が訪れます。

隠岐の海産物への憧れは、実は海産物の水揚げが減少した現代に始まったことではないようです。今から1200年以上も前に、すでに隠岐ブランドの海産物があったのです。それは「隠岐鮑(おきあわび)」です。

その証拠の1つは当時の都、奈良の平城京で見つかっています。当時、各地の特産物などを税として納める場合、それに木簡と呼ばれる木の札にその地方の名や納税者の名前、特産物の種類や量などを記して取り付けました。平城京から出てきた木簡には、隠岐からあわびを納めたことを記す木簡が実に8点も出土しています。

また平安時代中期、10世紀の法の運用を定めた『延喜式』には、天皇が即位した年の秋に行われる大嘗祭に隠岐あわびを供えることと記されています。さらに新羅からの使者が帰国する際には隠岐あわびをご馳走するように定めた取り決めもあります。

以上のようなことから、隠岐のあわびは、古代には特別なものとして扱われていたことがわかります。知夫村の御崎横穴墓群では、あわびが横穴の中から出土しました。珍重された隠岐あわびだからこそ死者のもとに供えられたのでしょうか。

今も昔も、あわびはグルメの垂涎的であったことは変わりないとしても、産地が隠岐であることでその価値がますます増していったのはまちがいないようです。



## おたっきー情報

隠岐で道を歩いていると、崖に横穴がよくあいている。古墳時代の横穴墓か?と思ったら、実は「いもぐら」と呼ばれる貯蔵用の穴であることが多い。知夫村大江のいもぐらは村指定文化財だ。でも古墳時代の横穴墓といもぐらを厳密に見分けることはなかなか難しい。